

神道ソングライターに変身した鎌田先生

宗教学者&神道ソングライター

鎌田東二先生、来たる!

宗教学者で神道ソングライターの鎌田東二先生(京都大学名誉教授・上智大学特任教授)が、7月8日に中央大学多摩キャンパスへ来校。講演とパフォーマンスを行った。

文 & 写真 | 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程 辻信行

ぼうぜん
呆然と固まる人、目を輝かせ面白がる人…。教室の反応は様々に分かれた。さっきまで真面目に講演していた宗教学者が、突然サングラスをかけ「神道ソングライター」に変身。オリジナルソングを熱唱し始めたからである。私にはこみ上げてくる想いがあった。

話は6年前にさかのぼる。当時学

部の3年生だった私は、自分の履修している講義とアルバイトの空き時間に、いろいろな大学の講義に潜り込むのが好きだった。

あるとき、早稲田大学で開講している鎌田東二先生の「比較宗教学」に潜入した。まず先生のファッションに驚く。全身緑色なのだ。スーツ、シャツ、ズボン、靴。そしてハンカチや腕時計、サングラスに至るまで。

次に話のダイナミックさに驚く。身近にある神社から宇宙の銀河系までを串刺しにして展開する。学問領域で言えば、ミクロで具体的な民俗学からマクロで抽象的な宗教哲学まで。早大での講義をきっかけに、私は鎌田先生の大ファンになった。

今回の講演は、文学部教授の榎本泰子先生がコーディネーターを務めているワン・アジア財団の寄付講座「アジア共同体を考える - 共に生きるための15のヒント」の一回として行われた。

講演前に、私がキャンパス内を案内することになった。まずは桜広場の「勝五郎の道」へ行く。ここは江戸時代のオカルト好き国学者、平田篤胤が採録した「勝五郎再生記聞」の舞台である。

自らの前世を語る勝五郎少年は、中野村(現在の多摩キャンパス付近)に生まれ、前世の父母が住む程久保村へ歩いて行った。そのとき通った道が、白門の裏側にある。



講演は静かに始まった

去年までは立派な看板を立てられ
由縁を伝えていたが、なぜか看板だ
けなくなってしまった。鎌田先生と
残念がる。

続いて、キャンパス内の山上にあ
る金住稲荷へ。鎌田先生はここで
法螺貝を奉奏して参拝。

山から下りて講演へ向かう。今回の
お題は「宗教から見るアジア共同体」。

鎌田先生は直近に訪ねた東北地方
での活動を報告した後で、満場の参
加者に、キャンパス内の金住稲荷へ
行ったことがあるか問いかけた。参
加者約 200 人中、手を挙げたのは 7
～ 8 人。「絶対に行ってください」
と鎌田先生。

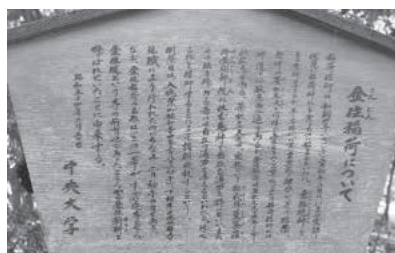
金住稲荷にはインドの荼枳尼天が
祀られているが、日本の神社には韓
国・朝鮮や中国、インドの神様がい
ろいろ祀られており、「アジア的習
合」となっている。神道は「日本固
有の伝統」とは言えないと続けた。

そして、経済的・政治的な「東ア
ジア共同体」とは異なった「東アジ
ア文化共同体」の構築を考える上で、
基底としてのアニミズム・シャーマ
ニズム、多神教、漢字文化、仏教な
どの持つ力について論じた。

また、国家間で政治的な対立が



ギターに加え、横笛も



多摩キャンパスにある金住稲荷

あっても、宗教や芸能の場ではそれ
を超えて理解し合える。1997 年の
猿田彦神社遷座奉祝祭で奉納演舞さ
れた金梅子さんの韓国舞踊「日巫」
を例に、映像を見せながら紹介した。

最後に自作自演の実例として、

冒頭で触れたパフォーマンスの
時間に。2016 年 6 月 19 日に宮城県
の釣石神社再建奉祝祭で奉納した
「鎮魂能舞 北上」を演奏。石笛、
横笛、法螺貝の奉奏と、アカペラ、
ギター付歌唱を含む 4 楽章を一気に
披露した。

「インパクト やべえ！」

「こんな大学教授、いるんだね！」

終了後に学生たちから漏れ聞こえ
た感想が、この日の成功を物語って
いた。



満員の教室

Information

鎌田先生の講演に関心をお持ちの
方は、2017年1月13日(金)と1月20
日(金) 18:30～21:00に、
東京・自由が丘のNPO法人東京自
由大学で開催される、鎌田東二ゼミ
「日本の神々と聖地」にぜひお越し
ください。

詳しくは、以下の東京自由大学のHP
をご覧ください。

☐ <http://www.t-jiyudaigaku.com/>